

単元名 たしざん(1)

配当時間 7時間

単元の目標 (1) たし算が用いられる場面やたし算の記号と式について知り、合併や増加の場面をたし算の式に表し、 $(1\text{位数}) + (1\text{位数}) = (10\text{以下の数})$ の計算をすることができる。  
 (2) 合併や増加の場面を、同じたし算と考えることができる。  
 (3) たし算が用いられる場面に興味をもち、たし算の式に表せるよさを知り、進んでたし算を用いようとする。

## 標準的な展開例

01040107\_001

【準備等】数図ブロック、たし算カード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 具体操作を通して、合併の場面を理解する。[p. 40・p. 41]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>かえるの絵を見て話し合う。</li> <li>合わせて考える問題を解く。</li> <li>単元の学習課題をつかむ。</li> <li>★2つのかずをあわせると、いくつになるかかんがえていこう。</li> </ul> <p>2 合併の場面を加法の式に表し、答えを求める。[p. 42・p. 43]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★「あわせていくつ」をたしざんのしきであらわそう。</li> <li>たし算の式の表し方を知る。</li> <li>「練習問題」に取り組む。</li> </ul> <p>3 具体的操作を通して、増加の場面を理解する。[p. 44]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ふえるといくつになるかかんがえていこう。</li> <li>増えるといくつになるか話し合う。</li> <li>数図ブロックで操作する。</li> </ul> <p>4 増加の場面を加法の式に表して、その答えを求める。[p. 45]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★「ふえるといくつ」をたしざんのしきであらわそう。</li> <li>たし算の式の表し方を知る。</li> <li>「練習問題」に取り組む。</li> </ul> <p>5 場面絵を見て、加法の問題を立式し、その答えを求める[p. 46]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>場面絵を見て話し合う。</li> <li>本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ばめんえのもんだいをたしざんのしきであらわそう。</li> <li>合併・増加の問題を立式し、答えを求める。</li> </ul> <p>6～7 カードを使って、答えが10までの加法の練習をする。[p. 47]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★たしざんカードでたしざんのれんしゅうをしよう。</li> <li>たし算カードを作る。</li> <li>答えが10になるカードを見付ける。</li> <li>たし算カードを使って加法に習熟する。</li> <li>巻末の「かあどげえむ」を紹介する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体物が中央に集まることを、数図ブロックに置き換えて操作させる。</li> <li>拡大図や教師用数図ブロックなどを用いて、数図ブロックが中央に集まる様子を視覚的に捉えさせる。</li> <li>数図ブロックを両側から中央に寄せるように動かすことを押さえる。</li> </ul> <p>【評】合併の場面を操作する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数図ブロックによる操作を式に表し、用語「たし算、式、答え」や、記号「+、=」の読み方や書き方を知らせる。</li> <li>記号の書き方に注意させる。</li> <li>ノートの取り方について、黒板で説明すると分かりやすい。</li> </ul> <p>【評】立式し、答えを求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>具体物が近付いてくると、数図ブロックに置き換えて操作させる。</li> <li>数図ブロックを片手のみ動かすことを確認する。</li> </ul> <p>【評】増加の場面を操作する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数図ブロックの操作と式を対比させながら考えさせる。</li> <li>前時の学習を想起させ、自動車を数図ブロックに置き換えて、増える動きをさせる。</li> </ul> <p>【評】立式し、答えを求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題の文章を何度も読み直し、題意を絵や数図ブロックなどを用いて考えさせる。</li> <li>題意を絵や数図ブロックなどを用いて考えさせる。</li> </ul> <p>【評】加法の場面の文章題を立式し、答えを求める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10までの範囲の加法について、素早く答えられるように習熟を図る。</li> <li>繰り返し練習が必要なので、家庭の協力を得ながら取り組ませるとよい。</li> </ul> <p>【評】カードを使って加法の計算練習をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

本単元は、和が10以下になる1位数同士の加法を学習する。加法が用いられる場面を理解するためには、「合わせる」（合併の場面）や「増える」（増加の場面）の意味を場面絵や具体的操作を通して理解できるようにすることが大切である。そして、合併や増加の具体的操作と加法の記号や式を結び付けさせる。また、読み方や書き方を理解し、計算ができるように指導する。